

ことだ
言出しは誰が言なるか 小山田の
なわしろみず
なかよど
おやまだ
苗代水の中淀にして 万葉集巻4の716 紀郎女

早乙女に 薪きし種芽の 身は山田

田植えの水は 堰を切り増す

令和五年五月二十九日

大中臣正比呂



あきのおおきみ
きいらつめ おおどものすくねやかもち
一首目は、安貴王の妻となった紀郎女の大伴宿禰家持への返歌である。
「声を掛けたのは貴男の方なのに、最近どうしてるのよー」という恨みの
歌である。小山田とは何処か。大伴家持が新都に就いた時に、身は山田
みわやま
三輪山の裾野の田に居たなら、旧都は三輪山に見える九州の地である。